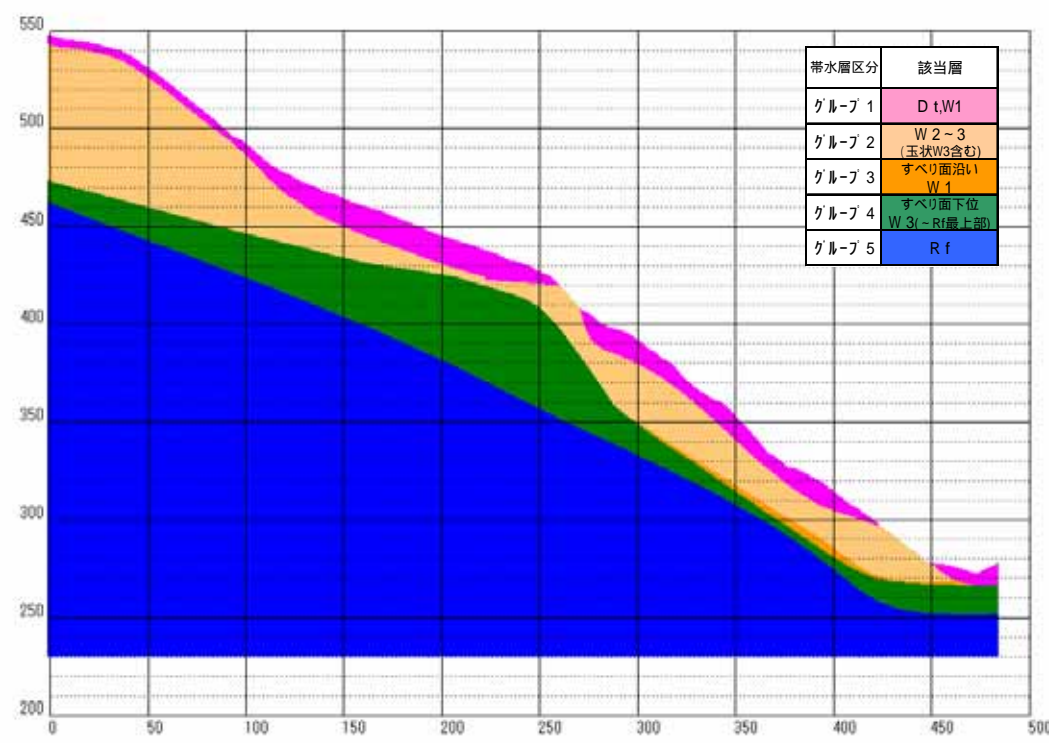
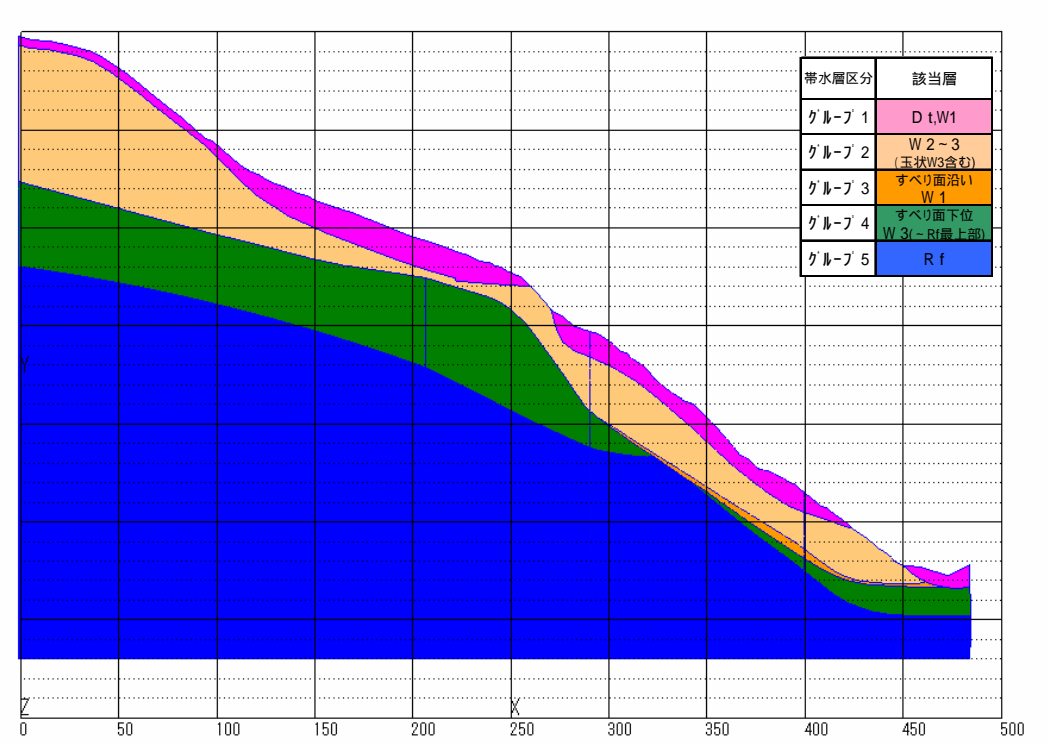
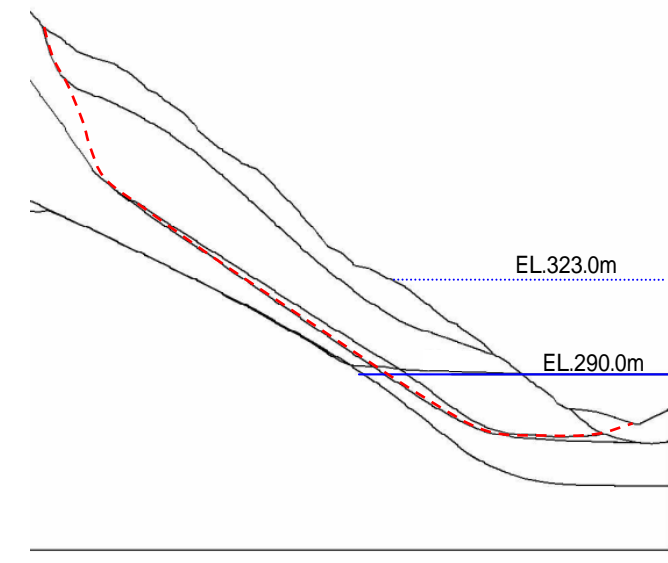
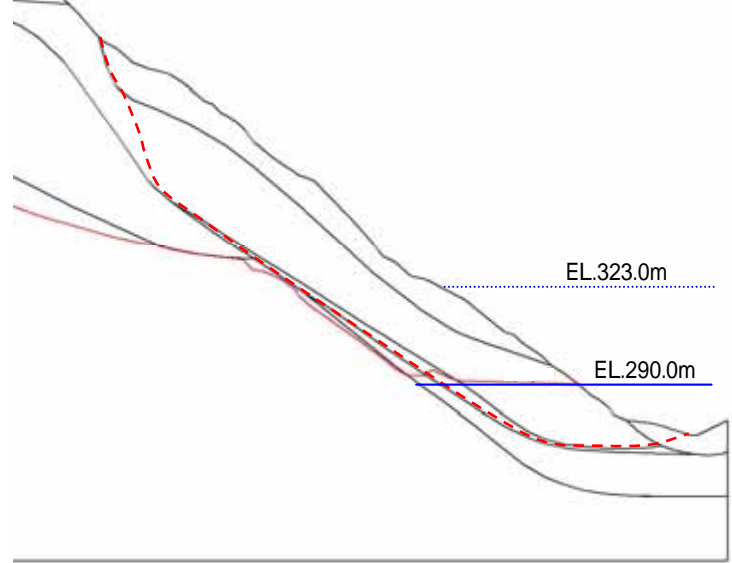


§ 1 追加ボーリングによる設計条件の精査

事項	要点	備考
1-1 迫地区 1-1-4 浸透流解析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸透流解析の結果から、迫地区の現地形における貯水池運用時の間隙水圧残留率は5%である。 	
1) 解析条件	<p>第1回委員会において、浸透流解析の条件が設定されている。今回の浸透流解析でも、この解析条件を踏まえた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次元断面モデルにより飽和・不飽和浸透流解析を実施した。 ・ 残留率計算の対象範囲は下部すべり面であるが、解析モデルは、上部すべり面をカバーする範囲とした。 ・ 地下水位解析結果による定常水位平面分布を初期水位とし、水理地質構造と現場透水試験結果を重視したモデル構築を行った。 ・ 地表面、風化区分境界、下部すべり面・上部すべり面範囲、主なボーリング孔を規制要素として、メッシュ分割を行った。メッシュの大きさは3~4mを標準とし、細かい領域内では扁平メッシュを避けるため1~2mと小さく、水位変動域外では5m程度と大きく設定した。 ・ 境界条件については、地表面接点は貯水池からの浸透と内部からの浸出が可能な条件とし、貯水位変化に合わせた固定水頭の変動を設定した。上流側および下流側は固定水頭を設定した。 	
2) 解析モデル	<p>迫地区の浸透流解析は測線 3 を対象断面とし、風化区分図をもとにモデルを作成した。</p> <p>図 1-1-11 風化区分図からの解析モデル作成 (迫地区測線 3)</p>	

§ 1 追加ボーリングによる設計条件の精査

事項	要点	備考
1-1 迫地区 1-1-4 浸透流解析	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 1-1-12(1) 解析モデル (迫地区測線 3 ; 追加調査前 (参考))</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 1-1-12(2) 解析モデル (迫地区測線 3 ; 追加調査後)</p> </div> </div>	
3) 解析結果	<p>貯水位がサーチャージ水位(EL.323.0m)から第2期制限水位(EL.290.0m)まで低下したとき (貯水位が EL.290.0m に達した計算ステップ) の浸透流解析結果の水位線を図化し、「貯水池周辺の地すべり調査と対策」に従い、間隙水圧残留率を算出した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 1-1-13(1) 解析結果 (迫地区測線 3 ; 追加調査前 (参考))</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 1-1-13(2) 解析結果 (迫地区測線 3 ; 追加調査後)</p> </div> </div>	